

平成27年度 学校自己評価システムシート (県立寄居城北高等学校)

目指す学校像	将来、社会に貢献できる人材を輩出し、地域に信頼される学校となるため、総合学科の特色を生かした教育を実践し、知・徳・体のバランスのとれた力を身につけた生徒の育成に取り組む。
--------	---

※学校関係者評価実施日とは、最終回の学校評価懇話会を開催し、学校自己評価を踏まえて評価を受けた日とする。

重点目標	<ol style="list-style-type: none"> 1 系列の特性を生かした教育を実践し、確かな学力の育成と資格の取得に取り組む。 2 部活動や学校行事などの特別活動を通して、規律ある態度を身につけ、心身ともに健全な生徒の育成に努める。 3 インターンシップ等の体験活動を通して、進路意識の醸成を図り、生徒の適性や希望に応じた進路実現に努める。 4 積極的な情報発信を通して、保護者や地域から共感を得られる魅力ある学校づくりを進め、地元を中心に意欲ある生徒の確保に繋げる。
------	---

達成度	A	ほぼ達成(8割以上)
	B	概ね達成(6割以上)
	C	変化の兆し(4割以上)
	D	不十分(4割未満)

出席者	学校関係者	6名
	生徒	4名
	事務局(教職員)	14名

※ 重点目標は3つ以上の設定も可。重点目標に対応した評価項目(年度達成目標を意味する。)は複数設定可。

※ 番号欄は重点目標の番号と対応させる。評価項目に対応した「具体的方策、方策の評価指標」を設定。

学 校 自 己 評 価							学 校 関 係 者 評 価	
年 度 目 標					年 度 評 価 (2 月 9 日 現 在)		実 施 日 平 成 2 8 年 2 月 9 日	
番号	現状と課題	評価項目	具体的方策	方策の評価指標	評価項目の達成状況	達成度	次年度への課題と改善策	学校関係者からの意見・要望・評価等
1	職員の授業改善への取り組みにより、成績不振者が減少する等、学力向上の成果は見られる。今後、きめ細かな学習指導と家庭学習の徹底と確保が必要である。また、資格取得をとおして、学習意欲や学力向上に繋げる。	・授業の工夫・改善や学習時間の確保、資格取得により、学習意欲・学力を向上させる。	<ol style="list-style-type: none"> ① 授業中のマナーやルールを周知徹底させる。 ② 分かる授業を実施する。 ③ 習熟度別授業や少人数クラス等の特色を生かし、学力向上に繋げる。 ④ 基礎力テストを行う。 ⑤ 教員が相互に参観できる授業研究を行う。 ⑥ 家庭学習時間を確保する。 ⑦ 資格取得者を増やす。 	<ol style="list-style-type: none"> ① 授業中のマナー等徹底できたか。 ② 成績不振者は減少したか。 ③ 習熟度別授業や少人数クラス等を生かし、学力向上の成果が上がったか。 ④ 基礎力テストを実施できたか。 ⑤ 教員が相互に参観できる授業研究を行ったか。 ⑥ 家庭学習時間の確保ができたか。 ⑦ 資格取得者が増えたか。 	<ul style="list-style-type: none"> ・授業中のマナーは 90.8%が順守していると回答。 ・成績不振者は、昨年比約25%減少している。 ・習熟度別授業による「分かりやすさ」は、1年 72%、2年 65%と回答。 ・授業公開見学者のコメントを集約し職員で共有化。 ・家庭学習時間を確保している生徒は全体の 28.9% (前年 35.9%) ・資格取得者(商業)は、昨年比ほぼ同じである。 	B	<ul style="list-style-type: none"> ・授業中のマナー等の定着については継続した取組が必要である。 ・成績不振者減少とともに基礎学力定着を図る取組が必要である。 ・習熟度別授業等の実施による学力向上の成果について検証できる方策を研究したい。 ・授業力向上週間は、今後さらに内容を充実させたい。 ・家庭学習時間の確保策は、次年度も大きな課題である。 ・資格取得の指導は、今後も継続に取り組み、学習意欲の向上につなげたい。 	<ul style="list-style-type: none"> ・学力向上は、ただ受験の勉強をするだけでなく、将来何をしたいのかなどを考えさせて、学習に取り組ませる指導が必要である。 ・高校生の活字離れが叫ばれている中、ビブリオバトルという取組はとても良いと思う。読書は、高校卒業後も学びは続くという観点から、とても大切である。今後も継続して欲しい。 ・中学の時、数学が苦手だったが、高校では基礎の基礎から教わることができて、分かるようになった。 ・専門学校は、授業が専門的になるので、高校在学中に、数学など基礎をしっかり身につけてもらいたい。
2	きめ細かで徹底した生徒指導・整容指導により、遅刻者数や生徒指導件数も減少している。さらに徹底した指導が必要である。学校行事や部活動、ボランティア活動をさらに充実させ、バランスのとれた生徒の育成に繋げる。	・基本的生活習慣を身につけさせるとともに、学校行事や部活動、ボランティア活動を活性化・充実させる。	<ol style="list-style-type: none"> ① 挨拶や言葉遣い、遅刻の指導を徹底する。 ② 月1回マナー学習を行う。 ③ 部活動やボランティア活動への積極的参加を呼び掛ける。 ④ 文化祭等の学校行事を充実させる。 	<ol style="list-style-type: none"> ① 活発な挨拶が行われ、遅刻者が減少したか。 ② 月1回マナー学習が実施できたか。 ③ 部活動やボランティア活動への参加が増えたか。 ④ 充実した文化祭等の学校行事が実施できたか。 	<ul style="list-style-type: none"> ・遅刻者数は、昨年比微増であり、達成されていない。 ・月1回のマナー学習により、服装頭髪等の身だしなみの向上が図られた。 ・部活動加入者は、昨年比微増である。 ・学校行事には 80%以上の生徒が満足しており積極的に取り組んでいる。 	B	<ul style="list-style-type: none"> ・遅刻者は、昨年比で微増しており、次年度も継続して取り組む必要がある。 ・挨拶・マナー・身だしなみの向上に向け、継続した取組が必要。 ・部活動加入者は、昨年比微増であり、更なる参加率の向上を目指す。 ・充実した学校行事が実施できるよう継続して取り組む。 	<ul style="list-style-type: none"> ・バランスのとれた常識人を育成し、地域を盛り上げる人材を育成して欲しい。 ・校内での挨拶は良いが、校門を出るとまだ十分ではないように思う。もう一歩進んでもらいたい。 ・生徒が、学校行事や部活動等でいろいろな体験ができることは良い。自分はこういうことができたという経験が自信につながる。社会に出て、こういう経験が必ず生きてくる。
3	系統的進路指導と系列別ガイダンスにより、進路意識が向上し、就職・進学希望者のほとんどが進路決定できた。きめ細かな小論文・面接指導や進路補習を徹底させ、さらなる充実させる。また、インターンシップを有効活用し、キャリア教育を充実させる。	・きめ細かな指導とインターンシップの有効活用により、進路意識を高め、3年次生全員の進路決定を目指す。	<ol style="list-style-type: none"> ① 系統的進路指導と系列別ガイダンスをより充実させる。 ② きめ細かな指導により、3年生全員の進路を決定させる。 ③ インターンシップを多面的に活用し、進路意識の醸成を図るとともに、望ましい職業観を育成する。 ④ キャリア教育を充実させる。 	<ol style="list-style-type: none"> ① 系統的進路指導と系列別ガイダンスにより、進路指導が充実したか。 ② きめ細かな指導により、3年生全員の進路を決定したか。 ③ インターンシップの多面的に活用により、進路意識の醸成と望ましい職業観を育成できたか。 ④ キャリア教育が充実できたか。 	<ul style="list-style-type: none"> ・3学年を中心に進路ガイダンスや面接指導等積極的な指導を展開し、ほぼ 100%進路が決定した。 ・インターンシップに関して「勉強になった」との回答は 98%。進路意識の醸成や職業観の育成が進んだ。 ・マナー学習や在り方生き方教育等、様々な活動において充実した内容が実施できた。 	A	<ul style="list-style-type: none"> ・生徒が現状に甘んじることなくより高い進路意識を持ち、それを実現させるための取組を組織的に進める必要がある。 ・1年次のインターンシップを活用し、進路意識の醸成等に今後も継続的に取り組む必要がある。 ・キャリア教育についてはあらゆる教育活動において実践して必要がある。 	<ul style="list-style-type: none"> ・企業では、生き抜く力やたくましさ、課題を見つけて自分で解決できる力を持っている人材を求めている。 ・社会では、メンタルヘルスが課題となってきた。社会は競争社会であり、今の子どもたちは競争に慣れていない。社会と学校のギャップは大きい。 ・生徒には、もう少しハングリーさが欲しい。欠乏する体験をしてもらいたい。生きてゆくすべ(生きる力)を身につけてもらいたい。
4	充実したHP(ホームページ)や学校説明会による情報発信により、入学者を確保できた。「地域連携型総合学科」として、特色ある教育活動の充実にも努めるとともに、地域の教育力を本校生徒に活用する。	・地域の教育力や外部評価・意見を活用するとともに、HPや学校説明会等による情報発信を充実させる。	<ol style="list-style-type: none"> ① 「城北高校だより」をとおして、教育情報を地域に伝える。 ② 中学校訪問や学校説明会、塾訪問等により、入学者を確保する。 ③ HPによる情報発信を充実させる。 ④ 学校評議員会等の意見を学校運営に反映させる。 	<ol style="list-style-type: none"> ① 「城北高校だより」をとおして、教育情報を地域に伝えることができたか。 ② 中学校訪問や学校説明会、塾訪問等により、入学者を確保できたか。 ③ HPによる情報発信が充実できたか。 ④ 学校評議員会等の意見を学校運営に反映できたか。 	<ul style="list-style-type: none"> ・「城北高校だより」11号までの発行、本校HPの100回以上の更新により、適時的な教育情報の発信ができた。 ・志願倍率(1月発表)では、1.08倍で昨年(0.96倍)を上回った。 ・多様な進路希望や学習状況に対応するため、夏季休業中の講座の充実等、評議員等の意見・要望に適切に対応することができた。 	A	<ul style="list-style-type: none"> ・「城北高校だより」や本校HPの更新は、更なる充実と適時的な情報発信に努める必要がある。 ・寄居町を中心に近隣中学校からの受検希望者の更なる増加を図る方策を考える必要がある。 ・学校評議員会や外部の機関との連携を図り、地域の教育力を学校運営に活かす取組を推進する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・町や商工会などの地域活動に熱心に参加してもらいたい。観光と商業による町づくりを目標としているので、今後も協力をお願いしたい。 ・花いっぱい運動は、地域としてとてもありがたい。今後も続けて欲しい。 ・地域のふれあいサロンで、秩父屋台囃子や秩父音頭を披露してもらい、参加した老人が喜んでくれた。感動や元気をもらった。